

南相馬市鹿島区真野、西真野地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- FOEASほ場での大豆作付け及び、水稻・大豆の輪作体系の適正な実施による、大豆の収量、品質の安定化
- 地域で合意形成を図り、農地利用調整により大豆の作付けを拡大
- 水稻・大豆輪作体系における経営収支を試算

2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【R3作付面積】水稻：46.8 ha、大豆：6.9ha、牧草：7.0ha、畜産：70頭
- H17より大豆を導入し、水稻、大豆のブロックローテーションに取り組み、徐々に面積を拡大（R3：6.9ha→R5：11.2ha）
- 基盤整備を契機に、R2年からFOEASほ場で大豆を作付け



真野地区大豆ほ場

3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた品種選定>

- H28年に「里のほほえみ」を試験的に導入
- 脱粒性や青立ちが少なく、作業性がよいことから、H30に全面積品種転換

<品目別に団地化したブロックローテーションの実施>

- 作期が異なる品目を組み合わせたブロックローテーションを行うことで、労力分散、適期作業を実施
- 南相馬市鹿島区の基盤整備実施3地区で担い手に位置づけられ、大豆ほ場の団地化、面積拡大に取り組む（R3：6.9ha → R5：11.2ha）



真空播種機による大豆播種作業の様子

<FOEASの活用>

- FOEASほ場に大豆を作付けし、播種後及び開花期頃に灌水処理を実施

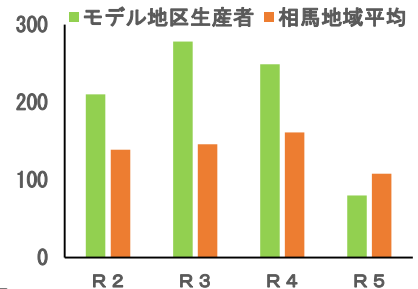
4 取組成果

<FOEASほ場活用等による収量確保>

- FOEASほ場での適切な灌水処理やブロックローテーション、適期作業の徹底により、R2～4年にかけて200kg/10aを上回る収量確保
しかし、R5年は虫害(主にカメムシ)の影響により減収

<安定した農業所得の確保>

- R4年における大豆収支（10aあたり）
収入 64,176円(交付金含む) - 支出 44,979円 = 所得 19,196円



5 課題（6年度のポイント）

- カメムシ対策として、フェロモントラップ設置や、すくい取り調査を行うことで発生状況を把握し、適期防除の徹底を支援する。
- 開花期以降、FOEASによる地下水位の維持を行い、収量向上に繋げる。
- 水稻・大豆輪作体系における収支の試算を行う。